



千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会 広報紙

暮らしを拓く



「千葉市障害者グループホーム等連絡協議会の設立とこれからの活動について」

千葉市障害者グループホーム等連絡協議会 会長 番場 勇介

千葉市障害者グループホーム等連絡協議会の番場と申します。

千葉市障害者グループホーム等連絡協議会の発足について、令和2年10月より千葉市では各区に障害者基幹相談支援センターが設立され、様々なニーズや地域の課題が浮き彫りになり、多様化してきていると感じています。その中でも障害者グループホームのニーズは多様化を極めており、その様々なニーズに応えていくためにも連絡協議会の必要性を感じたために設置しました。この多様化するニーズに応えていくためには、地域との連携が必要不可欠であるかと考えています。今までにも連携という言葉は使われてきましたが、今一度連携とは何か？という部分にフォーカスを当てていく必要があるのではないかと考える毎日です。特に難しい事例においては、一つのグループホームが悩みや不安を抱え込むことも多く見られ、結果としてグループホームの疲弊、御入居者様の退去と誰も幸せにならない形になってしまうことも数多くあるのではないかと考えます。しかしグループホーム等が「横の繋がりを強化」し、難しい案件を一つのグループホームだけで抱え込むことがなく、共に問題解決が図れるようになることも大切な支援になるのではないかと考えます。また今までグループホーム等の施設は孤独を感じる事も多く、支援方法に至っても自分たちの経験でしか対応することが出来ないグループホームも少なからず存在するのではないかと考えていました。しかしグループホーム等連絡協議会に参加して下さった事業者様の中には同様に感じて下さった方々もいらっしゃり、とても心強いと感じることが出来たのは非常に良かったのではないかと思います。

今後グループホーム等の支援においては「利用者様にとっての真の自立支援」「時代に合った支援の提供体制」が焦点になってくるのではないかと思います。まだまだ障害福祉サービスは発展途上であり、今後もニーズの多様性は熾烈を極めていくと思います。その中で、各事業者同士が法人と言う枠を超え、利用者様の求める支援に少しでも近づくことができるよう、千葉市障害者グループホーム等連絡協議会が様々な研修等を通じて研鑽を積む場所となることができればと思います。

最後になりますが、私の考えの中で「制限」を「鍵」と表現しております。少しでも心や身体、生活、仕事等のありとあらゆる様々な利用者様の鍵が解放される世界となれるよう皆様と一緒に成長し、作り上げていく努力を続けていきたいと思っています。

令和3年度千葉県障害者グループホーム 新規開設WEBセミナー報告

令和3年度新規開設セミナーは、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から YouTube を使用してのオンライン配信で実施致しました。

グループホームへの期待度が加速度的に高まる中で、グループホーム本来の千葉県における位置づけ、グループホームをめぐる歴史と現在グループホームに求められていること、これまでの新規開設相談をグループホーム等支援ワーカーが受けてきた中での気づきを丁寧に解説いたしました。

また、実際にグループホームを開設するまでの地域とのかかわりや、利用者のありのままの暮らしぶりも参考になったとのお声をいただきました。

今年度は国の報酬改定もあり、重度化・高齢化への対応や、医療ケアを必要とする方への積極的なグループホーム等への地域移行の推進、いわゆる強度行動障害者への手厚い支援等、求められていることは多岐にわたります。

グループホームを新規に開設するということは、これらの多岐にわたる要望に応えていくということに他なりません。実際に、報酬改定でも夜間支援員の配置について従来より細分化され、より細やかな支援を求められています。グループホームに関わる全ての皆様に、利用者の人生を共に歩む重みと楽しさの一助となることを期待しております。

千葉県障害者グループホーム 新規開設WEBセミナー

令和3年8月23日(月)～9月5日(日)

YouTubeにて動画セミナーを公開 参加費無料

コロナウィルス感染拡大防止の観点から、オンラインによるセミナーを開催いたします。何卒、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

URLは別途、お申込み頂いた方へメールにてご案内いたします。パソコンなどの端末と、インターネット環境メールアドレスが必要です。

- 主催者挨拶及び障害者グループホーム等支援事業の説明
千葉県健康福祉部障害福祉事業課 永島佳月
- 障害者グループホームの歴史と現在求められていること
元習志野圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 石塚友子
- 開設支援の中で気づいたこと
元野田圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 大橋宜彦
- 映像「暮らしを拓く」「実際に暮らしてみよう」
- 障害者グループホーム等支援ワーカーよりお知らせ
海戸圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 上原 林弘志

新規開設セミナーは毎年開催しておりますが、
新規開設相談は随時受け付けております。
ご相談の際は各圏域担当ワーカーまでご連絡
ください。





ぶらりホーム訪問



GH 訪問記 社会福祉法人八千代翼友福祉会友愛みどり園 ケアホームもやい・^{しやく}緯

今回は、八千代市にある「ケアホームもやい」を訪問させていただきました。
八千代市で4番目の福祉作業所として、20年前に開所した社会福祉法人八千代翼友福祉会友愛みどり園を母体としたホームです。友愛みどり園の利用者の親御さんの高齢化に伴い、「もやい」は12年前に開所されました。現在5住居を運営されており、入所者の障害支援区分はほぼ5～6となっています。

管理者の大久保氏の案内で、「もやい」・「^{しやく}緯」の見学をさせていただきました。『地域（生まれ育った土地）で普通（障害のあるなしにかかわらず）の市民としての生活を』という理念の基に支援を行っています。特に禁止事項は設けていないが、問題行動が起こることはないです。と大久保氏は話されました。例えば職員の仮眠時に利用者が冷蔵庫を開け、醤油や油を飲んでしまったことが過去にあったが、今は扉が開かないよう工夫をし、問題行動が起こらないようにしている、日常生活の場において、「あーしろ、こーしろ」などと常に言われるのはどうか、とも話されました。私は、支援する側が工夫することで解決できることがあるのだと痛感しました。



6棟目を女性棟で開所したいと考えておられますが、女性の職員の配置が難しく、それでもやはり同性介助を行えないのなら男性棟にせざるを得ないとおっしゃっていました。

近隣の学校の方に福祉体験に来ていただいたり、学校の窓ふきに伺わせていただき、子どもたちに「知的障害」を知っていただく活動をおこなうことで（現在はコロナ禍で中止）、「知的障害ってなに？」という人がいない世の中にしていきたいと熱く思いを語られていました。グループホームという小規模だから出来ることに今後も取り組んでいきたいと語ってくださいました。

重度の方が地域で自分らしく暮らせる場所が、どんどん増えてもらいたいと感じることが出来たホーム訪問となりました。

ホーム名「もやい」の由来

船の帆の縁を船首側に引っ張るために用いられた ^{もやい} 舳 結びが由縁

障害がある方でも地域と結びついていてもらいたいとの思い

き ど あいらく 起 努 力 楽 のコーナー

『起業する努力、出逢いがあるって楽になる』障害者グループホーム等支援ワーカーは新規開設のお手伝いをします！
また開設後の応援もしています！



グループホーム等支援ワーカー（以下、支援ワーカー）として2年目。私が担当している市川圏域では新規グループホームが増え続けているが、ある日、重い知的障害の娘さんがいるお母さんが「断られるのが分かっているから、グループホームの見学にも行かない・・・」とつぶやいた。確かに、新規事業者の多くは福祉経験のない異業種からの参入。入居対象は軽度障害の方々。このような状況で8050問題や障害の重い方など、今後本当にグループホームを必要としている方々が住めるホームはできるのか？と不安を感じていた。

ところが、親の会の会合でグループホームが話題になった時、ある社会福祉法人の理事長から「社会福祉法人じゃないからダメ、福祉経験が浅いからダメ・・・などと考えていたら一步も前に進まない。私たち経験の長い社会福祉法人だって、重い方の入居の際には、日中作業所のスタッフや相談支援専門員などがサビ管と一緒にあって、一から体制を整えるもの。そのプロセスは、社会福祉法人でも株式会社でも変わらない！もう待ってられないから、去年、私は障害の重い方8人を株式会社のグループホームに入居させてもらった・・・」という話を伺い、驚くと同時に支援ワーカー1年目のことを思い出した。

新規グループホームへ支援ワーカー就任の挨拶に行くたびに「先日、社会福祉法人〇〇の理事長が見学に見えましたよ」という話をよく耳にしたのだ。その理事長とは生活支援部会でお会いしていたのだが、いつも静かで控えめ。でも質問が鋭く、どちらかというと支援ワーカーに対して素っ気ない方。その理事長が、実は密かに新規グループホームへ見学に行き、管理者やサビ管と話をして「この人たちなら、任せて大丈夫かな？」と思えたグループホームに重い障害のある方々の入居を働き掛けていたのだ。

今年はパラリンピックの年だが、その理事長の話を聞き、障がい者スポーツの父と言われるルードウィッヒ・グットマン博士の「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」という言葉が頭に浮かんだ。正にグループホームも同じではないか。「無いものを数えるな、あるものを最大限生かせ」の考え方に立ち、問題を先送りするのではなく、問題に果敢にチャレンジしていきたいと決意をあらたにした。

市川圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 岩崎 淳

市川圏域概況（令和3年4月1日現在）

事業所数：33事業所 定員数：411名 ホーム数：97住居（内サテライト型6住居）

編集後記

オリンピックでは若手選手が楽しそうに競技に打ち込んでいる姿が印象的でしたね。
圏域で行ったGH世話人研修会では、参加者から「仕事が楽しい」との発言がありました。
“楽しい”の裏にはオリンピックも職場であるGHも皆で努力している過程が大事なのだと思いました。



発行者 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

事務局 海匝圏域障害者グループホーム等支援ワーカー
旭市ロー838

（社会福祉法人ロザリオの聖母会 海匝ネットワーク内）

編集担当

長生・夷隅圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 金沢 千絵